

## 令和2年司法試験 合格体験記

平成29年度修了（未修コース）山下 雄樹

私の合格体験よりも失敗体験の方が皆さまにとって有益だと思いますので、少しだけお話をさせていただきます。

私は他大学の理工学部出身で、入学の日まで法律知識ゼロの、今となっては絶滅種の完全純粋未修者です。そんな私は当時右も左もわからなかったこともあり、せっかく法科大学院で学んでいるのに判例絶対至上主義の勉強をしてしまい、それ以外のことは見向きもしていませんでした。そのうち、「司法試験には判例さえ知っていればいい、それ以外の知識も勉強も無意味だ」と思うようになっていきました。そうなる则だんだん傲慢になっていき、「〇〇の本はダメだ」というように、上から目線で物事も見erようになります。さらに進むと、自分はまだ何者でもないのに謎のエリート意識をこじらせて、プライドばかりが高くなっていきました。当時の私は誰から見ても本当に嫌な人だったと思います。

そんな私を気づかせてくれたのは岡大に関わる全ての方々でした。何かを学ぶということは教わるということです。もちろん、全てを鵜呑みにすることなく自分で考えて目的達成のために優先順位をつけて学ぶことは大切です。しかし、教わる立場でありながら、不必要に上から目線である必要は全くありません。私は岡大で、もう一度学び方を見つめなおす機会を得ることができたことが何よりも大きかったです。

もう少し、司法試験合格という現実的な話をすると、「問いに答える」ということが何よりも大切だと思います。わかっていたつもりでしたが、本当の意味でわかっていなかったがために3回も費やしたのだと思います。そして、ほとんどの受験生は2時間で3000字程度しか書けません。そうだとすると、知識があつて、色々なことを考え思いついたとしても、結局大したことは書けないのです。つまり、2時間3000字で答案をまとめるためには、最低限度の知識と答案の作法を下に、自分が知っている話か否かとは無関係に、「問われていることは何だろう」と問題文をとにかく読むしかないので。そして、問いに答える練習素材が過去問です。テーマの把握は他の問題集でもできますが、問われ方の把握や練習は過去問でしかできません。そういう目線で過去問をもう一度見直してみると、見え方や意識が変わってくるかと思ひます。そこに自分なりに気づくことが出来れば、後はもう試験を受けるだけです。